

優先する基本方針案

	現状	アンケートの回答			年間水収支の特徴	年間汚濁負荷収支の特徴	優先する方針と取り組み案
乙川下流ブロック	<p>(水の量について)</p> <ul style="list-style-type: none"> 西部で農地、東部で森林が減少。 東部で森林保全活動、西部では湿地保全と自然体験の森での活動がある。 森林の整備活動は減少傾向。 灌漑期の正常流量が不足。 <p>(水の質について)</p> <ul style="list-style-type: none"> 乙川で河川水質は改善傾向(下水整備等により)。 下水道未整備地域、市西部の市街地の河川で水質が良好でない。 河川にゴミが捨てられることが問題。 乙川下流部がため池状態になると、水質悪化につながる。 油流出などの水質事故が毎年発生。 鹿乗川以外は環境基準達成。 農業集落排水処理施設は河川水質改善に寄与。 地下水質は、主に市街地でテトラクロエチレン等が環境基準を超過。 水質の改善に取り組んでいる市民団体等がある。 <p>(災害について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ほぼ毎年、床上・床下、道路破壊・冠水の被害が発生。 	<p>(満足度が高いもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害(洪水)の心配 災害(濁水)の心配 <p>(満足度が低いもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> 水との関わり 水の量 水の質 水辺環境(自然・親しみ) 	<p>(優先順位が高いもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> 水の質 災害(洪水) 災害(濁水) 	<p>(市民が協力できるもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭排水をきれいにする 節水 川の清掃活動に参加 	<ul style="list-style-type: none"> 平常時における自然系、人工系の流量は両方5割程度。 表面流出が多い。 浸透、地下水流出が少ない。 河川からの取水、河川への排水が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活・営業系、産業系の負荷の割合が高い(生活系;78%、産業系;15%)。 生活・営業系の中では単独処理世帯からの負荷の割合が高い(約9割) 	<p>【優先方針1:水をきれいにする】</p> <p>【優先方針2:災害から守る(洪水・濁水)】</p> <p>【優先方針3】</p> <ul style="list-style-type: none"> 水との関わりを深める 水を育む 水辺を豊かにする
	<ul style="list-style-type: none"> 西部の市街地、乙川沿岸、男川沿岸は浸水被害の発生の危険性が高い。 最大の災害は昭和46年8月の台風。 床上浸水1,274棟(東海豪雨時);床上浸水414棟 河川整備計画において、氾濫防止対策が予定されている(現在検討中)。 浸水被害を軽減するためには、雨水を貯留浸透させることも重要。 ため池が多く分布しており、洪水対策として利用できる可能性がある。 農作物への干害が周期的に発生。 地震災害時に断水しても、全市民が河川水を生活用水(飲用不可)に利用可能な水量がある。 農業用水を消防水利として利用。 <p>(水辺環境について)</p> <ul style="list-style-type: none"> 河川・ため池・水田・湿地などの水辺環境が豊富。 市街地を中心に河川環境整備や拠点整備が推進されている。 農業用水幹線の一部を利用し、遊歩道設置、せせらぎ水路の復活。 ため池等では外来種が特に優占し在来種が減少。 河川や水路でも在来種が減少。 <p>(水との関わりについて)</p> <ul style="list-style-type: none"> 水辺環境が豊かであり、人と川との繋がりも豊富。 水辺を活用したイベント等行われているが、開催地点が限られている。 森の駅整備事業により自然環境の継承、保全育成が期待できる。 水環境の改善に関し、取り組んでいる学校がある。 	<p>アンケートの回答</p> <p>(満足度が高いもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害(洪水)の心配 災害(濁水)の心配 水辺環境(自然) 水の質 水辺環境(親しみ) <p>(満足度が低いもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> 水との関わり 水の量 	<p>(優先順位が高いもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> 水の質 水の量 水辺環境(自然) 	<p>(市民が協力できるもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭排水をきれいにする 節水 森林保全や水環境をよくするための年会費を払う 	<ul style="list-style-type: none"> 雨が深い。 平常時は自然系の流量の割合が高い(約9割)。 表面流出が少ない。 浸透、地下水流出が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活・営業系の負荷が多く、次いで自然系の負荷が多い(生活・営業系;44%、自然系;36%) 生活・営業系の負荷量の中では、単独処理世帯、汲取り処理世帯からの負荷が多い(単独;7割弱、汲取り;約3割) 	<p>【優先方針1:水をきれいにする】</p> <p>【優先方針2:水を育む】</p> <p>【優先方針2:水辺を豊かにする(自然)】</p> <p>【優先方針3】</p> <ul style="list-style-type: none"> 水との関わりを深める

	現状	アンケートの回答			年間水収支の特徴	年間汚濁負荷収支の特徴	優先する方針と取り組み案
青木川ブロック	<p>(水の量について)</p> <ul style="list-style-type: none"> 西部で農地、東部で森林が減少。 東部で森林保全活動、西部では湿地保全と自然体験の森での活動がある。 森林の整備活動は減少傾向。 灌漑期の正常流量が不足。 <p>(水の質について)</p> <ul style="list-style-type: none"> 乙川で河川水質は改善傾向(下水整備等により)。 下水道未整備地域、市西部の市街地の河川で水質が良好でない。 河川にゴミが捨てられることが問題。 乙川下流部がため池状態になると、水質悪化につながる。 油流出などの水質事故が毎年発生。 鹿乗川以外は環境基準達成。 農業集落排水処理施設は河川水質改善に寄与。 地下水質は、主に市街地でテトラクロロエチレン等が環境基準を超過。 水質の改善に取り組んでいる市民団体等がある。 <p>(災害について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ほぼ毎年、床上・床下、道路破壊・冠水の被害が発生。 	<p>(満足度が高いもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害の心配(洪水) 災害の心配(濁水) <p>(満足度が低いもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> 水との関わり 水の量 水辺環境(自然・親しみ) 水の質 	<p>(優先順位が高いもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> 水の質 水辺環境(自然)(以下同率) <p>(市民が協力できるもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭排水をきれいにする 節水 川の清掃活動に参加 	<p>(満足度が高いもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> 水の量 水辺環境(親しみ) 災害(濁水) 	<ul style="list-style-type: none"> 平常時流量では自然系の割合が高い(8割)。 表面流出が少ない。 浸透、地下水流出が多い 浸透、地下水流出が多い。 家庭からの排水はほぼ全て河川へ流出する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活・営業系の負荷の割合が高い(82%)。 生活・営業系の中では単独処理浄化槽からの負荷の割合が高い(約9割) 施肥由来等、計上外の汚濁負荷排出源が考えられる。 	<p>【優先方針1:水をきれいにする】</p> <p>【優先方針2:水辺を豊かにする(自然)】</p> <p>【優先方針3】</p> <ul style="list-style-type: none"> 水を育む 水辺を豊かにする(親しみ) 災害から守る(濁水) 水との関わりを深める
	<p><市民の要望></p> <ul style="list-style-type: none"> 満足度の低い水質の改善 満足度が低い水辺環境(自然)の改善 	<p><考察></p> <ul style="list-style-type: none"> 下水道の整備が遅れているが、自然形の流量が多いことから河川水質は良好になっていると考えられる。 市街地内の支川等、自然系の流量が少なくなる河川では水質が悪くなると考えられる。 水質及び流量を改善するには、下水道整備、単独処理浄化槽の合併浄化槽化や、自然系流量の確保に取り組むことが必要。 					
広田川ブロック	<ul style="list-style-type: none"> 西部の市街地、乙川沿岸、男川沿岸は浸水被害の発生の危険性が高い。 最大の災害は昭和46年8月の台風。 床上浸水1,274棟(東海豪雨時;床上浸水414棟) 河川整備計画において、氾濫防止対策が予定されている(現在検討中)。 浸水被害を軽減するためには、雨水を貯留浸透させることも重要。 ため池が多く分布しており、洪水対策として利用できる可能性がある。 農作物への干害が周期的に発生。 地震災害時に断水しても、全市民が河川水を生活用水(飲用不可)に利用可能な水量がある。 農業用水を消防水利として利用。 <p>(水辺環境について)</p> <ul style="list-style-type: none"> 河川・ため池・水田・湿地などの水辺環境が豊富。 市街地を中心に河川環境整備や拠点整備が推進されている。 農業用水幹線の一部を利用し、遊歩道設置、せせらぎ水路の復活。 ため池等では外来種が特に優占し在来種が減少。 河川や水路でも在来種が減少。 <p>(水との関わりについて)</p> <ul style="list-style-type: none"> 水辺環境が豊かであり、人と川との繋がりも豊富。 水辺を活用したイベント等行われているが、開催地点が限られている。 森の駅整備事業により自然環境の継承、保全育成が期待できる。 水環境の改善に関し、取り組んでいる学校がある。 	<p>(満足度が高いもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害(濁水)の心配 <p>(満足度が低いもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> 水との関わり 水の質 水辺環境(自然・親しみ) 災害(洪水) 	<p>(優先順位が高いもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害(洪水) 水の質 水の量 	<p>(市民が協力できるもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭排水をきれいにする 節水 川の清掃活動に参加 	<ul style="list-style-type: none"> 占部用水、高橋用水の影響が大きい。 平常時は人工系の流量の割合が高い(約8割)。 表面流出が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活・営業系の負荷が多い。(90%) 生活・営業系の負荷量の中では、単独処理世帯からの負荷量が多い(約9割) 	<p>【優先方針1:災害から守る(洪水)】</p> <p>【優先方針2:水をきれいにする】</p> <p>【優先方針3】</p> <ul style="list-style-type: none"> 水を育む 水との関わりを深める
	<p><市民の要望></p> <ul style="list-style-type: none"> 満足度の低い災害(洪水)の改善 満足度が低い水質の改善 満足度が低い水量の改善 	<p><考察></p> <ul style="list-style-type: none"> 表面流出が多いことから浸水被害の発生が心配される。 下水道の整備が遅れているが、乙川・矢作川からの流量が多いことから河川水質は良好になっていると考えられる。 両河川からの取水が少ない時期や、両河川からの取水が通水されない支川等では水質が悪くなると考えられる。 水質を改善するには、下水道整備、汲取りや単独処理浄化槽の合併浄化槽化が必要。 					

	現状	アンケートの回答			年間水収支の特徴	年間汚濁負荷収支の特徴	優先する方針と取り組み案
鹿乗川ブロック	<p>(水の量について)</p> <ul style="list-style-type: none"> 西部で農地、東部で森林が減少。 東部で森林保全活動、西部では湿地保全と自然体験の森での活動がある。 森林の整備活動は減少傾向。 灌漑期の正常流量が不足。 <p>(水の質について)</p> <ul style="list-style-type: none"> 乙川で河川水質は改善傾向(下水整備等により)。 下水道未整備地域、市西部の市街地の河川で水質が良好でない。 河川にゴミが捨てられることが問題。 乙川下流部がため池状態になると、水質悪化につながる。 油流出などの水質事故が毎年発生。 鹿乗川以外は環境基準達成。 農業集落排水処理施設は河川水質改善に寄与。 地下水質は、主に市街地でテトラクロロエチレン等が環境基準を超過。 水質の改善に取り組んでいる市民団体等がある。 <p>(災害について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ほぼ毎年、床上・床下、道路破壊・冠水の被害が発生。 西部の市街地、乙川沿岸、男川沿岸は浸水被害の発生の危険性が高い。 最大の災害は昭和46年8月の台風。 床上浸水1,274棟(東海豪雨時;床上浸水414棟) 河川整備計画において、氾濫防止対策が予定されている(現在検討中)。 浸水被害を軽減するためには、雨水を貯留浸透させることも重要。 ため池が多く分布しており、洪水対策として利用できる可能性がある。 農作物への干害が周期的に発生。 地震災害時に断水しても、全市民が河川水を生活用水(飲用不可)に利用可能な水量がある。 農業用水を消防水利として利用。 <p>(水辺環境について)</p> <ul style="list-style-type: none"> 河川・ため池・水田・湿地などの水辺環境が豊富。 市街地を中心に河川環境整備や拠点整備が推進されている。 農業用水幹線の一部を利用し、遊歩道設置、せせらぎ水路の復活。 ため池等では外来種が特に優占し在来種が減少。 河川や水路でも在来種が減少。 <p>(水との関わりについて)</p> <ul style="list-style-type: none"> 水辺環境が豊かであり、人と川との繋がりも豊富。 水辺を活用したイベント等行われているが、開催地点が限られている。 森の駅整備事業により自然環境の継承、保全育成が期待できる。 水環境の改善に関し、取り組んでいる学校がある。 	<p>(満足度が高いもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害の心配(湧水) <p>(満足度が低いもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> 水との関わり 災害の心配(洪水) 水の質 水辺環境(親しみ・自然) 	<p>(優先順位が高いもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害(洪水) 水の質 <p>(以下同率)</p> <ul style="list-style-type: none"> 水の量 災害(湧水) 	<p>(市民が協力できるもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭排水をきれいにする 節水 川の清掃活動に参加 	<ul style="list-style-type: none"> 上流からの流量の影響が大きい。 平常時は人工系の流量の割合が高い(約9割)。 表面流出が多い。 河川への排水が多い。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>< 考察 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 表面流出が多いことから浸水被害の発生が心配される。 下水道の整備が遅れており、環境基準を達成できていない。 水質を改善するには、下水道整備、汲取りや単独処理浄化槽の合併浄化槽化が必要。 汚濁負荷収支計上外の負荷排出源が存在する可能性がある。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> 生活・営業系、産業系の負荷の割合が高い(生活系;63%、産業系35%)。 生活・営業系の中では単独処理浄化槽からの負荷の割合が高い(約9割) 施肥由来等、計上外の汚濁負荷排出源が考えられる。 	<p>【優先方針1:災害から守る(洪水)】</p> <p>【優先方針2:水をきれいにする】</p> <p>【優先方針3】</p> <ul style="list-style-type: none"> 水を育む 災害から守る(湧水) 水とのかかわりを深める 水辺環境を豊かにする(親しみ・自然)

基本方針案のとりまとめ

	水の量	水の質	災 害		水辺環境		水との関わり
			洪 水	渴 水	自 然	親しみやすさ	
アンケートキーワード	<ul style="list-style-type: none"> 雨が降ると、すぐ水量が増える 普段の水量は少ない 季節によって水量が異なる 山林・森林の保全、保水機能向上が必要 家庭排水の流入が多い 	<ul style="list-style-type: none"> 生活排水の流入が多い ゴミが多い 水量が少ないと汚く感じる (キーワード) ホタル 魚(コイ、フナ、メダカ) ザリガニ 	<ul style="list-style-type: none"> 大雨で溢れそうになる 低地は浸水頻度が高い 道路が冠水する 排水不良がある 本川から支川への逆流がある ゴミがたまり、川が溢れる 	<ul style="list-style-type: none"> 森林を保全する 断水時の給水が心配 農業用水の確保が困難 			<ul style="list-style-type: none"> 花火大会がある イベント、行事がある(魚の放流、草刈) 活動できる川ではない 水が汚い
年間水収支 収支上の特徴 汚濁負荷	<ul style="list-style-type: none"> 下流は、上水・工水・農業用水、生活排水等の川との水のやり取りが多い(乙川下流、広田川、鹿乗川) 上流は人工系の影響が少ない(乙川上流、青木川) 	<ul style="list-style-type: none"> 単独処理家庭、汲取り家庭からの生活排水による汚濁の占める割合が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 低平地、排水の不良等により浸水被害が発生すると考えられる(広田川、鹿乗川)。 				
基本方針案の例	<p>雨を受け止め、ゆっくり流し、上手に使う</p> <p>ゆっくり流し、上手に使う</p> <p>豊かな水を育て、上手に使う</p> <p>豊かな水を創る</p>	<p>負荷を減らし、清らかな流れを保つ</p> <p>ホタルが飛び交う清流の確保</p> <p>山からの水をきれいに使い、きれいに流す</p> <p>きれいで清らかな水を創る</p>	<p>雨を蓄え、ゆっくり流す</p> <p>雨を蓄え、災害に備える</p> <p>雨を流域にとどめて水害を減らし、渇水や震災に備える</p> <p>安全で災害に強い水環境を創る</p>		<p>豊かな自然とふれあえるまち</p> <p>人と自然がやすらげる水辺空間をつくる</p> <p>人と自然にやさしい水辺空間を育る</p> <p>生き物にやさしく、親しみのある水辺を創る</p>	<p>水環境づくりに参加する</p> <p>水を活かし、水を通してつながりあう</p> <p>水を共生し、水を活かす</p> <p>水との関わりを創る</p>	
対策の方向性案	<ul style="list-style-type: none"> 河川流量の確保 ゆっくり流す 水源涵養機能の維持増進 雨水浸透機能の維持・回復 雨水の有効利用・地下涵養 雨水を貯める、利用する、浸透させる 適切な土地利用 自然地の保全・土地利用の適正化 都市の保水機能の向上 森林・農地の保全・整備 森林・農地の保水機能の向上 緑の募金等緑化推進活動 	<ul style="list-style-type: none"> 汚濁負荷量の削減 排水をきれいにして流す 安全でおいしい水の確保 生活排水の適正処理 事業所排水の削減指導 河川清掃の推進 水質保全活動の推進 散乱ゴミ対策 水質の監視 環境に配慮した農業の推進 地下水汚染の防止 	<ul style="list-style-type: none"> 治水対策の促進 災害に強いまちづくり 流域の流出抑制 保水、遊水機能の保持 河川の洪水流下能力の確保・向上 内水排除 被害軽減システムの確立 緊急時における体制づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 非常時における水確保 いざというときに備えて水を蓄える 多様な水源の確保 雨水の有効利用 節水型社会の構築 河川空間などの防災機能の活用 非常時の危機管理体制の強化 水源地の保全 	<ul style="list-style-type: none"> 水辺を保全する 水辺環境の保全と創出 流域における生態系の保全・回復 生物・生態系の保全・回復 動植物の多様な生育・生息環境の保護 多自然型川づくりの推進 	<ul style="list-style-type: none"> 水辺空間の整備 親水性の向上 人々が憩う身近な水辺づくり 自然と触れ合える場の確保 川に親しむ場と機会の提供 河川利用施設の整備促進 水辺景観の保全 	<ul style="list-style-type: none"> 人と水のかかわり強化 流域の人々のつながりをつくる 水の流れるを感じるまちづくり 水環境を学ぶ機会の充実 環境教育の促進 水環境保全意識の普及 水文化の育成 風土や文化を伝える 上流下流域間交流 水環境の環境資源への活用 水環境情報の提供と発信 水環境を保全する農林漁業の振興